

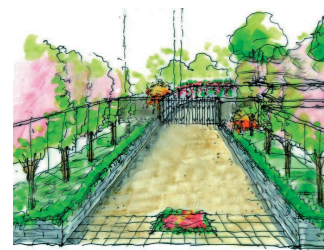


～花見のおはなし～



伊藤 晴子

桜の季節になると、天気予報で今日は何分咲きか伝えますよね。満開までのカウントダウンを気にしながら、お花見の計画を立てるのは楽しいものです。桜の花は深く散るイメージがありますが、実は満開になるまではどんな嵐にも散らないんだそうです。そんなところも桜の魅力ですね。では、今回はスタッフがお花見について語ります。



私は歩いて通勤しているので、桜の季節は嬉しくなります。病院の庭や昔からあるお宅の立派な桜の木を見ながら歩くのが大好きです。少しずつ咲いて、最後は桜吹雪になるまで美しいですね。実は、私のお花見は桜だけではなくて、通勤途中のいろいろなお花を年中見えています。街路樹、庭木、ペランダの鉢植え…と四季折々の花が色と匂いで楽しませてくれます。花に合わせて、通勤ルートを季節ごとに変えたりしますよ。



石原 洋子

子どもたちがまだ2、3歳だった頃、甘木にあるキリンビール園によく連れていきました。春は菜の花、秋はコスモスが一面に咲いていて、子どもたちもよくわからないなりに喜んでいました。でもやっぱり、春といえば桜ですよ。今年は桜が咲き始めたら、家の隣の公園に毎日行ってみようかと思っています。だんだん花が開いていって、満開になって、花びらが散るまでを、子どもたちに見せたいです。



重富 幸治郎

桜が見頃になると、主人と2人でお花見に行きます。天気の良い休日に舞鶴公園までバスで行き、帰りは歩いて大濠公園に寄り、お茶をして家まで戻るだけなんですけど。一度、舞鶴公園から西公園まで足をのぼしたことがありましたが、すぐ近くかと思ったら大間違いで、足がパンパンになりました(涙)。でも、同じようにご夫婦でお花見に来られている方々と知り合って、お話が弾んだりして、けっこう楽しいお花見なのです。



実松 千恵子

お花見は会社の恒例行事みたいになっています。金曜の朝、誰かが出勤前に場所取りをしておいて、社長と実松係長が食べ物と飲み物を調達してくれて、仕事が終わったら、みんなで舞鶴公園に出かけます。最近はお酒を飲めないスタッフも多いのですが、飲んでも飲めなくても、みんなで盛り上げられます。桜の花の下だからなおさら楽しいのですが、やっぱりお花見する時はメンバーって重要だと思います(笑)。



沖 知美

沖知美の **ひと言韓国語**

沖です。今回は韓国でお買い物する際に「いくらですか?」の次によく使われる言葉をご紹介します。韓国には値切る習慣があって、ごく自然に「少し安くして」と言えるようです。私も韓国旅行の時に小さな声で言ってみたら、「じゃあ100ウォンまけるよ」と言われて大喜びし…実は1000ウォンが80円(当時)なので、100ウォン値切っても、8円しか安くなっていないんですよ…お店の人が一枚上手でした。

「少し安くしてください」

좀 싸게 해 주세요

ジョム (少し) サゲ (安く) ヘ ジュセヨ (してください)

月刊 つばさ



あなたと、あなたのお店を訪れるお客様の健康のために、お役に立てたら幸せです。

2012年4月号

ゴールがないからこそ、「日々、新たなり」の心で。

木々の芽吹きや心地よい風に、春の訪れを感じます。街で見かける初々しいルートファッションも、この季節の風物詩ですね。この春、新しいスタートを切った皆さん、どうぞ夢に向かって一歩ずつ前進していきましょう。

私たち経営者も、自分の立てた目標に向かって日々努力しているのですが、同時に解決したい問題も常に抱えているものです。

その問題に頭の中を支配されて、目標達成への大事な決断がにぶらないよう、私にはいつも自分に言い聞かせている言葉があります。それが「日々、新たなり」。朝起きたら、昨日の悩みがリセットできていて、新鮮な気持ちで一日を始められる…そんな人になりたいと思っています。

もちろん、抱えた問題がなくなるわけでも、忘れるわけでもないのですが(苦笑)、コップにたまった水を一回捨てて、また新しい水を入れていくようなイメージです。昨日までの事でいっぱい頭には、有益な情報を入れていくスペースがないでしょう?

簡単なように思えますが、これが実践してみると、なかなか難しいのです。そのために経営者の多くが自分なりのリセット法をもっているようです。私の場合は仕事帰りにジムに寄り、思いきり汗を流します。いったん仕事のことを横に置いて、きつトレニングに集中すると、不思議にすっきりした気持ちでまた仕事に取りかかれます。

私たちの仕事にはゴールがありません。次から次へと目標をクリアし、前進し続けねばならないからこそ、一日一日を新しい気持ちで臨みたいと思っています。

株式会社ORTIC
代表取締役

伊藤 晴子



エラスチン&コラーゲンに 寄せられたご質問にお応えします。

おかげさまで、エラスチン&コラーゲン『シルキスタ』は店頭販売でもご好評をいただいております。弊社ではお取引先様を対象に商品説明会を開いておりますが、そこでよく出るご質問をもとに、今回は『シルキスタ』のおさらいをしたいと思います。店頭でのご説明などに使っていたら幸いです。

Q コラーゲンとエラスチンの由来は何ですか？

A コラーゲンとエラスチンには、豚由来のものや魚由来のものがありますが、『シルキスタ』は豚由来です。それは、**豚のコラーゲンとエラスチンが、人間のものとよく似ている**からです。『シルキスタ』のコラーゲンは豚皮から抽出していますが、医療現場でも、火傷の治療には豚皮を使います。アミノ酸の型が人間の皮膚とほぼ同じなので拒絶反応や合併症が少ないからです。このように、よく似ていれば同じような生理・薬効効果が期待でき、実際にお客様が体感されるのも速いのです。



Q 効果的な飲み方を教えてください。

A お薬ではないのでいつ飲んでも大丈夫ですが、眠っている間が肌への浸透が速いので、就寝前にお飲みいただくのがおすすめです。お客様の体験談では、**最初の1~2週間に1日2包を飲まれた方のほとんどが効果を体感**し、特に「目元のシワやホウレイ線が薄くなった」とのお声をいただいております。その後は1日1包にしていますが、効果は持続しています。「就寝前に2包を飲むのは、量が多すぎる」と思われる方は、風呂上がりや就寝前に分けて飲んでいただいても、十分に効果はあります。



Q なぜ、コラーゲン&エラスチンなのですか？

A 皮膚や靭帯・血管壁などの内側で、ワイヤーのようなコラーゲンを、ゴムのようなエラスチンが束ねていると思ってください。コラーゲンとエラスチンが共存している状態でないと、ハリと弾力は保てません。**サプリメントでコラーゲンのみを摂っても、固いコラーゲン繊維ばかり増えて、逆に肌にはたるみやシワが増え、血管も弾力をなくして危険です。**『シルキスタ』は、コラーゲンとエラスチンを50:1で配合しています。これは人間の真皮と同じ割合。ベストな比率でコラーゲンとエラスチンを補うことで、肌や血管のハリと弾力を蘇らせたというデータも出ております。



Q 『シルキスタ』は、どうして顆粒なのですか？

A 錠剤にするためには、賦形材など粉を固めるための素材を使わねばなりません。**『シルキスタ』は自然由来にこだわり、余分な成分を配合しません**でした。また、味を楽しんでいただくために、あえて顆粒にしています。天然レモン果汁で味付けをしているため「すっきりとして美味しい」というお声も多くいただいております。美味しく飲めるからこそ、毎日続けられるのです。皆様の美容と健康のために、そしておやすみ前の楽しみに『シルキスタ』を飲んでいただけたら、と願っています。



※本文中に出てくる商品の名称は通販ブランド「心美寿有夢」での商品名です。



それ、ウソです

丸山寛之

第53回

認知症を認知せず!?

認知症は、長年「痴呆症」と呼ばれていました。一略一。英米などではこの病気を一番最初に研究したドイツの精神科医アロイス・アルツハイマー博士の名前を取って疾患名としています。日本でも「アルツハイマー病」と改称して世界の仲間入りをしてはどうでしょうか。(日野原重明「病名のつけ方を見直そう」=朝日新聞2011年5月21日)

心から尊敬する日野原先生のお言葉ではあるが、これはちとおかしい。「認知症」イコール「アルツハイマー病」ではないからだ。

認知症にはいくつかのタイプがある。

多い順に挙げると、①アルツハイマー型認知症、②レビー小体型認知症、③混合型認知症、④脳血管性認知症(20年ぐらい前までの日本では、これが最も多かった)、⑤ピック病、⑥そのほか多くの種類の認知症となるが、ほとんどは①~⑤のどれかである。

①は、大脳にアミロイドと呼ばれる異常物質が沈着し、老人斑というシミができて、大脳全体が徐々に萎縮していくタイプの認知症だ。

②は、大脳の神経細胞にレビー小体という異常物質ができるために起こる。

③は、①と④の両方をもつ認知症である。

④は、脳卒中(脳出血、脳梗塞)の発作のあと徐々に症状が現れてくる。また、無症状の小さな脳梗塞が多数できる多発性脳梗塞によるものもある。

⑤は、大脳の前頭葉が萎縮する。

⑥のそのほか多くの認知症と似た症状を示す病気のなかで、特に重視すべきものとして慢性硬膜下血腫と正常圧水頭症がある。

慢性硬膜下血腫は、転倒などで頭部を打撲したとき、頭蓋骨の膜の一つである硬膜の内側に血液がたまり、脳を圧迫するために起こる。血腫を取り除けばよくなる。

丸山寛之 プロフィール

医療ジャーナリスト。NPO法人日本医学ジャーナリスト協会会員。1932年、鹿児島県生まれ。新聞記者、医学雑誌編集者を経て医療ライター。1960年代初めから面接取材した医師・医学者は優に1000名を超える。著書=「がんはいい病気」(マキノ出版)「読むサプリ」(明拓出版)「この酔狂な医者たち」(草思社)「ビジネスマン元気術」(日本マンパワー出版)など。雑誌「杜快」に「名医が聞く」連載中。Webサイトに「健康1日1話」<http://www.maru-san.info/> を開設。毎日更新している。



正常圧水頭症は、脳脊髄液が過剰になって脳を圧迫し、認知症の症状が起こる。脊髄に針を刺して髄液を抜けば治る。

手術で治せる認知症があるわけだ。

なお、アルツハイマー型認知症とアルツハイマー病は、脳の病変(老人斑)と症状はほぼ同じだが、発病年齢が前者は高齢者群、後者は初老者群と異なるため、専門的には区別される。

以上が「認知症」を「アルツハイマー病」と改称してはまずい理由である。

英米でも、痴呆(つまり認知症)はDementiaで、アルツハイマー病はAlzheimer diseaseだ。

では、なぜ、日野原先生は、認知症を“認知”されないのか? 上の引用文の冒頭で、こういっておられる。

「認知力のなくなった患者を『認知症』と呼ぶのは自己矛盾に思えるからです。正確に表現するなら『不認知症』ではないでしょうか」

厚生労働省が、「痴呆」を「認知症」と改称したのは、2004年12月である。

同年4月、同省に設置された「痴呆」に替わる用語に関する検討会は、「認知症」「認知障害」「もの忘れ症」「記憶症」「記憶障害」「アルツハイマー(症)」という六つの用語を提示し、ホームページなどで国民の意見を求めた。

応募総数6333件中のトップは「認知障害」だったが、これはすでに統合失調症の症状を示す用語として用いられている

ため、2位の「認知症」が選ばれた。

「認知」を学術語として厳密に用いる心理学や神経科学系の学会は、いまも「認知症」には反対している。

